ロンボク島における観光開発の現状と課題（TITLE）

山本権兵衛（AUTHOR）

＝＝＝改ページ＝＝＝

目次（HEADING LEVEL 1）

1. はじめに（TABLE OF CONTENTS） 1

2. 背景（TABLE OF CONTENTS） 5

3. 観光開発の現状：ケース1（TABLE OF CONTENTS） 12

4. 観光開発の現状：ケース2（TABLE OF CONTENTS） 24

5. 観光開発の課題（TABLE OF CONTENTS） 36

6. おわりに（TABLE OF CONTENTS） 48

＝＝＝セクション区切り（次のページから新しいセクション）＝＝＝

はじめに（HEADING LEVEL 1）

本稿では、1980年代以降のインドネシアのロンボク島における観光開発の状況を分析し、そこに現れている主な課題を検討する。[[1]](#endnote-1))（TEXT BODY）

１　背景（HEADING LEVEL 1）

本章では、ロンボク島における観光開発の歴史的背景を検討し、スハルト政権期における同島の開発をめぐる政治的、経済的要因を明らかにする。[[2]](#endnote-2))（TEXT BODY）

２　観光開発の現状：ケース１（HEADING LEVEL 1）

本章では、ロンボク島における観光開発の中でも、前章で自然発展型と名付けたタイプの開発の現状を明らかにするために、ABC村における観光開発の例を検討する。（TEXT BODY）

３　観光開発の現状：ケース２（HEADING LEVEL 1）

本章では、ロンボク島における観光開発の中でも、リゾート大規模開発型と名付けたタイプの開発の現状を明らかにするために、XYZ村における観光開発の例を検討する。[[3]](#endnote-3))

４　観光開発の課題（HEADING LEVEL 1）

本章では、第３章および第４章であげたケースを例にとって、ロンボク島における観光開発の課題を、観光開発の先進地域であるバリと比較しつつ、明らかにしていきたい。（TEXT BODY）

おわりに（HEADING LEVEL 1）

本稿では、スハルト政権後期に進展したロンボク島における観光開発の現状とその課題の分析を試みた。その要点をまとめると以下のようになる。（TEXT BODY）

＝＝＝改ページ＝＝＝

注（HEADING LEVEL 1）

参考文献（HEADING LEVEL 1）

山本権兵衛．1999．「バリ島の観光開発と伝統文化―伝統の再生か伝統の創造か―」『観光人類学』4(2): 101-120．（BIBLIO）

―――．2000．「ロンボクにおけるバリ文化―ヒンドゥー文化とイスラーム文化の相克―」『観光人類学』5(1): 51-62．（BIBLIO）

1. 本稿はまったくの架空の論考であり、その著者、参照されている文献は現実には存在せず、もとより主張されている事柄にはまったく根拠がない。（ENDNOTE） [↑](#endnote-ref-1)
2. 各段落末尾の赤字の名称は、この文章のなかでWORDが使用しているスタイルである。スタイルを確認するためには、「書式＞スタイルと書式」を選択のこと。（ENDNOTE） [↑](#endnote-ref-2)
3. 注を本文と参考文献の間に設けるためには（後注形式）、1）注の見出しのところにセクション区切りを挿入し（「改ページ＞セクションの区切り＞現在の位置から」を選択）、2）本文で注を挿入するとき、注本文の位置としてセクションの最後を選択する（「挿入＞参照＞脚注＞場所＞文末脚注＞セクションの最後」を選択）。（ENDNOTE）

   ＝＝＝改ページ＝＝＝ [↑](#endnote-ref-3)